

／よくわかる！／

**病害虫防除
マニュアル
ピーマン編**

そーだ、
にほんそーだに
そーだんしょう！



日本曹達株式会社

適期の薬剤散布がポイント! ピーマン作り に、日曹の製品がお役に立ちます。

[] RACコード
ハウスで使用する
くん煙剤

土壌病害・センチュウには…



使用時期／は種 又は
定植の15日前まで
(古株枯死以下は前作の
栽培終了後から残渣撤去
までも使えます)
使用回数／1回

適用病害虫名など	使用量	使用方法
ネコブセンチュウ	40～60ℓ/10a	※C
一年生雑草	60ℓ/10a	※A
苗立枯病(リゾクトニア菌)		※A・B
萎凋病		※C
半身萎凋病		※B・D
古株枯死	40～60ℓ/10a	※B
ネコブセンチュウ蔓延防止	60ℓ/10a	※D
アザミウマ類蔓延防止	60ℓ/10a	※D

- ※A 散布混和:所定量の薬液を土壌表面に散布し、直ちに混和し被覆する。
- ※B 希釈散布/灌水:あらかじめ被覆した内で、所定量の薬液を水で希釈し土壌表面に散布または灌水する。
- ※C 注入:所定量の薬液を土壌中約15cmの深さに注入し、直ちに被覆または覆土・鎮圧する。
- ※D 所定量の薬液を水で希釈し、土壌表面に散布または灌水する。

土壌消毒



定植期



バスアミド 微粒剤

使用時期／は種 又は定植21日前まで
使用回数／1回



適用病害虫名など	使用量	使用方法
苗立枯病(リゾクトニア菌) 半身萎凋病、萎凋病、青枯病 白絹病、一年生雑草	30kg/10a	所定量を 均一に散布後 土壌と混和

TOPIC

■黒枯病の防除にオススメ!

トップジンM 水和剤

(1)
希釈倍数／4000～6000倍
使用時期／前日
使用回数／3回



※裏面の病害虫図鑑をご参照ください。

ワンポイントアドバイス

※農薬登録における適用作物名(2024年4月1日一部改正)より

■「ピーマン」の登録では「ししとう」や「とうがらし」には使えません。詳しくは下表をご参照ください。

大作物群	中作物群	小作物群	作物名	作物名に含まれる別名、地方名、品種等の例	備考(収穫部位)
野菜類	なす科 果菜類	ピーマン 及び とうがらし類	甘長とうがらし	伏見とうがらし、万願寺とうがらし、 三宝とうがらし、ひもとうがらし	果実を収穫するもの。 未成熟の状態 で利用する甘味種。
			かぐらなんばん	—	果実を収穫するもの。
			きだちとうがらし	—	
			ししとう	ししとうがらし、獅子唐、葵ししとう	果実を収穫するもの。 未成熟の状態 で、あるいは 完熟させて利用する辛味種。
			とうがらし	鷹の爪、八房、日光とうがらし、 札幌大長とうがらし	
			ハバネロ	—	
			ピーマン	大獅子、カリフォルニアワンダー、 カラーピーマン、オランダパブリカ	果実を収穫するもの。
			ピカンテ	—	

注意:「ししとう」のみの登録では、ピーマン及びとうがらし類に属する他の作物には使用できません。

定植期の害虫には…

モスピラン 粒剤

(4A)



適用害虫名	使用量	使用時期／ 使用回数	使用方法
アブラムシ類	0.5g/株	定植時 /1回	種穴土壌混和
アブラムシ類 コナジラミ類		定植前日 ～定植当日 /1回	株元散布

アベイル 粒剤

(4A、28)



適用害虫名	使用量	使用時期／ 使用回数	使用方法
コナジラミ類 アブラムシ類 アザミウマ類 コガネシシトメ	2g/株	育苗期後半 ～定植当日 /1回	株元散布

ベシマーク SC

(28)



適用害虫名	使用液量		使用時期／ 使用回数	使用 方法
	薬量	希釈水量		
アブラムシ類 アザミウマ類 コナジラミ類	400株 当り 25mℓ	400株当り 10～20ℓ (1株当り 25～50mℓ)	育苗期後半 ～定植当日 /1回	灌注
コガネシシトメ	400株 当り 25mℓ	400株当り 10ℓ(1株 当り25mℓ)	定植直後	株元 灌注
アブラムシ類	400株 当り 25mℓ	20～200ℓ (1株当り 50～500mℓ)		

(注意:定植時までの処理及び定植直後の株元灌注は合計1回以内)

生育期の病害には…

■「ピーマン」に使える薬剤

適用病害名	製品名	希釈倍数 または使用量	使用時期／ 使用回数	備考
灰色かび病	ミギワ10フロアブル(52)	1000倍	前日/3回	炭疽病
	カンタスドライフロアブル(7)	1000～1500倍	前日/3回	黒枯病
	ハーモメイト水溶剤(NC)	800倍	前日/—	野菜類登録
黒枯病	ゲッター水と剤(10.1)	3000倍	前日/3回	—
	トップジンM水と剤(1)	4000～6000倍	前日/3回	炭疽病
	ファンタジスタ顆粒水と剤(11)	4000倍	前日/3回	—
	ストロビーフロアブル(11)	3000倍	前日/3回	うどんこ病
菌核病	ミギワ10フロアブル(52)	1000倍	前日/3回	炭疽病
うどんこ病	ミギワ10フロアブル(52)	1000倍	前日/3回	炭疽病
	パンチョTF顆粒水と剤(U6.3)	2000倍	前日/2回	—
	トリフミン水と剤(3)	3000～5000倍	前日/5回	—
	フルピカフロアブル(9)	2000倍	前日/4回	—
斑点病	ファンタジスタ顆粒水と剤(11)	4000倍	前日/3回	—
疫病	ピシロックフロアブル(U17)	1000倍	前日/3回	—

■「ししとう」に使える薬剤

適用病害名	製品名	希釈倍数 または使用量	使用時期／ 使用回数	備考
灰色かび病	カンタスドライフロアブル(7)	1000～1500倍	前日/2回	とうがらし類登録
黒枯病	トップジンM水と剤(1)	10000倍	前日/3回	—
	カンタスドライフロアブル(7)	1000～1500倍	前日/2回	とうがらし類登録
	ストロビーフロアブル(11)	4000倍	前日/2回	—
うどんこ病	トリフミン水と剤(3)	4000～5000倍	前日/5回	とうがらし類登録
	ストロビーフロアブル(11)	4000倍	前日/2回	とうがらし類登録
	トリフミンジェット(3)	50g/400m ³	前日/5回	—

生育期(本圃での散布)

収穫期

生育期の害虫には…

■「ピーマン」に使える薬剤

適用害虫名	製品名	希釈倍数 または使用量	使用時期／ 使用回数	備考
アザミウマ類	モスピラン顆粒水溶剤(4A)	4000倍	前日/2回	—
ハダニ類	ダニオーテフロアブル(33)	2000倍	前日/2回	—
	ニッソラン水と剤(10A)	2000～3000倍	前日/2回	—
アブラムシ類	モスピラン顆粒水溶剤(4A)	4000倍	前日/2回	—
	モスピランジェット(4A)	50g/400m ³	前日/2回	—
コナジラミ類	モスピラン顆粒水溶剤(4A)	4000倍	前日/2回	—
オオタバコガ	フェニックス顆粒水と剤(28)	2000～4000倍	前日/2回	—

■「ししとう」に使える薬剤

適用害虫名	製品名	希釈倍数 または使用量	使用時期／ 使用回数	備考
ハダニ類	ニッソラン水と剤(10A)	3000倍	前日/2回	—
アブラムシ類	モスピラン顆粒水溶剤(4A)	8000倍	前日/2回	とうがらし類登録
オオタバコガ	フェニックス顆粒水と剤(28)	2000～4000倍	前日/2回	とうがらし類登録



トリフミン 水和剤



パンチョTF 顆粒水と剤



日曹 カンタス
ドライフロアブル



ミギワ10
フロアブル



ハーモメイト 水溶剤



ピシロック
フロアブル



トリフミン
ジェット



日曹 ストロビー
フロアブル



モスピラン
顆粒水溶剤



日曹 フェニックス
顆粒水と剤



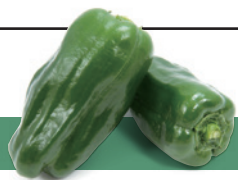
ニッソラン 水と剤



ダニオーテ
フロアブル



モスピラン
ジェット



ピーマン病害虫図鑑

病害

*提供: 日本植物防疫協会(撮影: 梶原敏宏氏)

【灰色かび病(苗発病) *Botrytis cinerea*】

圃場に残った発病葉・発病果上の病原菌や、地表面に菌核として残った病原菌が伝染源となる。次期作では、そこから孢子が飛散して伝染する。



発病葉

加湿すると菌糸と分生子を生じる

白い分生子

適用薬剤 ミギワ10フロアブル、カンタスドライフロアブル など

【菌核病 *Sclerotinia sclerotiorum*】

茎では褐色の病斑を形成し、葉や果実では軟化腐敗する。多湿時には白色綿毛状のかびで覆われ、黒色のネズミの糞状の菌核を形成する。



発病株

発病株

適用薬剤 ミギワ10フロアブル

【うどんこ病 *Leveillula taurica*】

葉の裏面に葉脈で区切られて、薄く霜状のかびを生じる。葉裏には淡黄色に退色した部分がある。葉が黄化して落葉が著しい。25℃前後を好み、空気湿度が乾燥した場合に発生が著しい。



発病株*

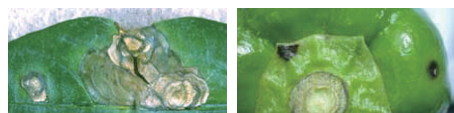
病斑上の孢子*

葉の病斑*

適用薬剤 フルピカフロアブル、バンチョTF顆粒水和剤 など

【黒枯病 *Corynespora cassiicola*】

主に葉で発生し、初め褐色小斑点を形成し、次第に黒褐色輪紋状の病斑となる(斑点病の病斑は円形、黒枯病の病斑は不定型になりやすい)。果実や果梗には、黒褐色の斑点を生じる。多湿条件で発生しやすい。



葉の病徴**

果実の病徴**

適用薬剤 ファンタジスタ顆粒水和剤、ゲッター水和剤 など
**提供: 高知県・こうち農業ネット

【疫病 *Phytophthora capsici*】

地際に発生しやすく、茎、葉、果実に暗褐色の窪んだ病斑を生じる。多湿条件下では病斑の表面に霜状のかびを生じる。梅雨後半から9月にかけて降雨が多いと多発する。



葉の病徴

果実の病徴

適用薬剤 ビシロックフロアブル

【モザイク病 AMV, PMMoV, PaMMV, CMV など】

アブラムシ類がウイルスを媒介したり、管理作業中にはさみを介して伝染する。ウイルスの種類により症状が異なるが、葉のモザイク症状や果実の奇形、株全体の生育不良などが生じる。



葉の奇形

葉の黄化

果実の奇形

害虫

【ミナミキイロアザミウマ *Thrips palmi*】

葉や果実からの吸汁により、生育が抑制。果実への寄生による品質低下を招き、えそモザイク病を媒介する。

雌成虫
(体長1.2mm)



被害果

被害葉裏

適用薬剤 ベリマークSC、モスピラン顆粒水溶剤 など

【モモアカアブラムシ *Myzus persicae*】

成虫および幼虫による吸汁害。ウイルス病を媒介する。



コロニー



成虫(体長2mm)及び幼虫(体長0.8mm)

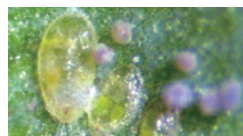


蕾の被害

適用薬剤 アベイル粒剤、モスピラン顆粒水溶剤 など

【タバココナジラミ *Bemisia tabaci*】

幼虫および成虫により、果実及び葉を加害する。



1齢幼虫(体長0.3mm)と
3齢幼虫(体長0.5mm)



成虫(全長1.2mm)



排せつ物によるすす病

適用薬剤 モスピラン顆粒水溶剤 など

【オオタバコガ *Helicoverpa armigera*】

幼虫により、果実や葉が食害される。



中齢幼虫
(体長12mm)



老齢幼虫
(体長30mm)

幼虫による
被害果

適用薬剤 フェニックス顆粒水和剤 など

【チャノホコリダニ *Polyphagotarsonemus latus*】

加害によりさび果の発生、葉の奇形、芯止まりとなる。



成虫(体長0.2mm)



寄生果



芯止まりとなる

●使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●小児の手の届くところには置かないでください。



日本曹達株式会社

〒100-7010 東京都千代田区丸の内二丁目7番2号

お問合せ (03)4212-9655

(平日9~12時、13~17時、土日祝日を除く)



HPIはこちら



LINE公式
アカウント